

pick-up contents on this issue

P1 特集

「学長の交代について」

P2

Campus Archive

キャンパス・アーカイブ 2017年8月～2018年2月までの出来事

P3

高大連携ニュース

P4

University & College News 学部・学科ニュース

P5

Way to go!

P6

My Life My Story



去る2月11日より学長に就任し、非常に重い責任を感じているところです。これまで20年間、本学の一教員として学生一人ひとりと向き合いながら指導にあたってきましたが、今後は俯瞰の立場で学生たちを見つめながら、よりよい学びの環境づくりに尽力していく所存です。

「2018年問題」という言葉があるように、今年から大学進学を志望する18歳人口の減少が加速します。一方で、高等教育機関である大学を卒業した人に対し、社会が求める期待や要望は変わりません。それらに応えていくためには、今以上に教育の質を高め、学生にはしっかりと力をつけて卒業してもらい、必要があり、協力体制を盤石にしていけることが、困難な時代を乗り越えていくための道だと考えております。



新学長 山谷 敬三郎

研究、実践、教育をリンクさせ、より質の高い学びを展開。意欲あふれる学生の姿を発信し、地域とともに育て上げます。

本学はここ数年間、入学者数が増加傾向にあり、経営的にも黒字に転換しております。これはなぜかと考えたときに、やはり第一には、各地域で頑張る卒業生の姿が、地域の皆さまで認められているからでしょう。卒業生は、短期大学として55年、大学として20年の歴史を通じて培ってきた財産です。その財産を大切にするとともに多様な研究成果を地域に公開し、これまで以上に教育活動と結びつけることにより、本学で学ぶ価値をいっそう高めることが必要です。新年度からは、研究、実践、教育をリンクさせる具体的な取り組みも推進してまいります。

また、これは私の持論ですが、「良い大学」とは、偏差値だけでは計れないものだと思っています。学生が自らの夢の実現に向けて熱心に取り組み、教職員はそうした学生たちを一生懸命にサポートする。そのように学生も教職員も意欲的に活動している大学こそが「良い大学」なのではないでしょうか。もちろん、本学はその条件を満たしていると思っております。ものの、現状は多くの意欲的な姿を地域の皆さまでうまくご覧いただけていないとも感じております。クラブ活動などで優秀な成績を収めた際は、各メディアに取り上げていただいておりますが、日常の教育活動そのものを自ら発信していけるような工夫をしたいと考えています。そのためにも、私自身がキャンパス内に広くアンテナを張り、教職員と

加傾向にあり、経営的にも黒字に転換しております。これはなぜかと考えたときに、やはり第一には、各地域で頑張る卒業生の姿が、地域の皆さまで認められているからでしょう。卒業生は、短期大学として55年、大学として20年の歴史を通じて培ってきた財産です。その財産を大切にするとともに多様な研究成果を地域に公開し、これまで以上に教育活動と結びつけることにより、本学で学ぶ価値をいっそう高めることが必要です。新年度からは、研究、実践、教育をリンクさせる具体的な取り組みも推進してまいります。

また、これは私の持論ですが、「良い大学」とは、偏差値だけでは計れないものだと思っています。学生が自らの夢の実現に向けて熱心に取り組み、教職員はそうした学生たちを一生懸命にサポートする。そのように学生も教職員も意欲的に活動している大学こそが「良い大学」なのではないでしょうか。もちろん、本学はその条件を満たしていると思っております。ものの、現状は多くの意欲的な姿を地域の皆さまでうまくご覧いただけていないとも感じております。クラブ活動などで優秀な成績を収めた際は、各メディアに取り上げていただいておりますが、日常の教育活動そのものを自ら発信していけるような工夫をしたいと考えています。そのためにも、私自身がキャンパス内に広くアンテナを張り、教職員と



しつかりコミュニケーションをとって、各学部・学科の取り組みを深く理解することから始めなければなりません。それが私の学長としての第一歩だと捉え、さっそく行動に移しているところです。

学長として在学中に求めるのは、やはり卒業生を本手にしてほしいということです。本学の卒業生には仕事を通して人々の生活の質を向上させたいという使命感をもち、地域で活躍している人がたくさんいます。先輩に続いてください。

そうした卒業生の方々、そして在学生の保護者の皆さまで、さらに地域の皆さまで、本学の応援団だと思っております。皆さまのサポートがあってこそ、本学はこの先も伝統を紡いでいくことができます。お気づきの点などがありましたら、遠慮なくご指摘ください。今後も学生一人ひとりをしっかりと育て、社会に送り出してまいりますので、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

厳しい時代を乗り越える基盤づくりを推進した4年間。退任後は研究者の道へ戻り、夢に向かって歩みます。

前学長 西村 弘行

2014年2月の学長就任から早いもので4年が経ち、この度退任する運びとなりました。日本社会の少子高齢化と大学・短期大学の運営は切っても切り離せない関係にあります。各大学で定員割れが起きているなか、健全な運営を続けていくために、常に社会のニーズに合わせて柔軟に対応していかねばなりません。

そこで就任初年度から「運営企画会議」を立ち上げました。本学では伝統的に教授会で物事が決められていたが、現代においては古い体制だと言わざるを得ません。教授会の上に協議決定機関としてのスリムな運営企画会議を設け、民主的かつ迅速な意思決定を行うように改革しました。

また、これと連動する「大学運営戦略本部」を組織し、2つのプロジェクトを設けました。「大学改革プロジェクト」では、運営の効率化に向け、細分化された部署の見直しを行いました。もう一方の「学生確保プロジェクト」では、各学部長と協議しながら教育内容と社会的ニーズを擦り合わせる作業を行っています。

2018年度からは大学進学者数のさらなる減少が見込まれるなか、こうした運営体制の基盤づくりこそが、学長としての最重要の役割でした。今後は山谷学長にバトンタッチしますが、いっそう万全な運営体制の構築に尽力していただけるものと信じております。

本学では、社会で活躍する人材を育てるという方針の下、全教員がより質の高い教育の実現に向けて努力しております。保護者の皆さまでには、本学と二人三脚でこどもの歩みを支えていただけましたら幸いです。また、私事になりますが、先日、平成29年度の北海道科学技術賞を受賞いたしました。私はもともと研究者であり、食にまつわる多様な研究に取り組んできた人間です。その視点から見ると、本学の北方圏生涯スポーツ研究センター（SPOR）は、大変素晴らしい施設であり、学長就任時に最も驚いたことの一つです。

退任後は学長室からスボル内へ移り、スポーツ医学やスポーツ栄養学などを専門とする教員とともに運動機能高め食品の研究を進めます。目標は食品開発のベンチャーを立ち上げること。そんな壮大な夢に向かって、引き続きお世話になります。この4年間の皆さまのご支援に感謝いたします。ありがとうございました。

英知 深遠な道理を探索し、深い知性、実践的な知恵。真の内在や心理を捉えることのできる認識力・実践力の育成。

和 互いの違いを理解し合うことで心、友情、協調性、他者への深い理解と柔軟で寛容な精神の育成。

愛 人間の存在とその価値を認め、温かな心で尊敬して行きたいと願う。温かな心、誠実、真心。地球規模での人類の発展と平和を願い、共生社会に生きる人間の育成。

「愛と和と英知」

学校法人浅井学園は、人間関係の基本として大切な「愛」と「和」を教育理念に掲げて70年の歴史を刻んでまいりました。近年、大学としてさらに「英知」を加え、確かな知識に裏打ちされた教育の拠点を目指してまいります。

建学の精神

（今日的定義）

「常に変化する社会に向かって真摯にかつ創造的に対応できる人材の輩出を目指し、より高い専門性と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」

本学園の建学の精神「女性の社会的地域の向上を目指し、女性に相応しい職業的技術と幅広い教養を身につけた、自立できる社会人の育成」は、1939年（昭和14年）、本学園の母体となった北海道レスメーカークール学園創立時に定められたものです。

この建学の精神は、自立の手段が限られ、狭い社会に閉じこめられていた女性に職業的技術と教養を身につけることを目指すという、当時としては、「時代を先取りした精神」をもっていました。その後、社会は大きく変わり、今日、高等教育機関には、男女を問わず一人ひとりが人間として幅広い教養を身につけ、自立した社会人を育成していくことが求められています。

こうした経緯を踏まえ、「建学の精神」のもつ本旨を今日の定義に敷衍し、表記のとおり定義します。



西村弘行前学長 特別教養講座

美味しい「美肌と健康」が大好評！

西村先生には、平成26年11月15日(土)の公開講座「ヤコン等の健康機能の話と試食」を皮切りに、本年2月10日(土)の特別教養講座「美しい美肌と健康」の話、薬膳試食と地域貢献まで、計8回の講座を開講していただきました。毎回、玉ねぎ、行者ニンニク、ヤコンなどの野菜についての健康と美肌効果を中心に、永年のご研究成果の科学的エビデンスに基づく多彩な内容を判りやすくご講義下さりまして、大気でした。いつも100人近い地域の方が詰めかけ、熱心に耳を傾けていました。また、軽快なお話に、終始、笑い声も聞かれました。西村先生の講座の魅力は聴講だけではなく、先生が監修された健康メニューを試食することができ、毎回大好評でした。2月10日(土)は、実に学長任期の最終日でした。前日に退任式や教職員・学生向けの最終講義を済ませ、更に地域住民向けの公開講座も忘れないところが、如何にも地域に支えられる地域密着型の地域貢献大学を標榜して4年間務められた西村前学長らしいスタイルでした。地域の皆様に楽しい生涯学習の機会をご提供いただきまして、誠に有り難うございました。

2月10日(土)は、実に学長任期の最終日でした。前日に退任式や教職員・学生向けの最終講義を済ませ、更に地域住民向けの公開講座も忘れないところが、如何にも地域に支えられる地域密着型の地域貢献大学を標榜して4年間務められた西村前学長らしいスタイルでした。



オリンピック代表選手を交え、スポーツ振興フォーラムを開催

10月23日(月)に、PAL多目的大教室で「スポーツ振興フォーラム」を開催しました。

このフォーラムは、北海道のスポーツ及び教育文化の振興や人材育成、地域社会の発展に寄与することを目的に、北海道と本学が提携した包括連携協定の調印を記念して開催しました。このフォーラムは、北海道のスポーツ及び教育文化の振興や人材育成、地域社会の発展に寄与することを目的に、北海道と本学が提携した包括連携協定の調印を記念して開催しました。



2018年に韓国で開催される冬季オリンピックに向けての準備状況や、アスリートとして心がけていたこと、各大会のエピソードなど、大舞台経験者の生の声に感銘を受けていました。シーズンを通して、様々なスポーツを楽しむことができる北海道ならではの道を拓かれていくことが期待されます。

第10回多文化理解フォーラム

「世界が目指すスポーツの祭典に向けて」

11月29日(水)に、「世界が目指すスポーツの祭典に向けて」韓国領事の「ここの話」と題し、多文化理解フォーラムを実施いたしました。講師には、平成28年8月より駐札幌大韓民国総領事館に着任した朴正錫(パクジョンホ)氏をお招きし、写真・映像を見ながら平昌オリンピックの概要をご紹介していただきました。韓国では、平昌オリンピックの大会スローガン「ひとつになった情熱」の実現に向け、国民の力と情熱で成功させようと一丸となり、交通インフラ整備では、仁川(インチョン)空港、ソウル、平昌までの高速鉄道計画を完成し、空港から平昌まで98分と短縮し、オリンピックが与える経済効果など「ここの話」をお話していただきました。



2月9日(金)～25日(日)に平昌オリンピックが開催され、参加国は96カ国、参加人数では約5万人となります。また、パラリンピックは3月9日(金)～18日(日)に開催され、参加国は45カ国、参加人数は2万5千人となります。この参加人数は、前オリンピックを越える史上最大規模の冬季オリンピックとなります。



生涯スポーツ学部公開講座「認知症と向き合う」

「認知症の正しい理解と対応」を開催

2月11日(日)に、認知症予防研究の第一人者、浦上克哉教授(鳥取大学医学部教授、本学客員教授)をお招きし、「認知症と向き合う」認知症の正しい理解と対応」というテーマで生涯スポーツ学部公開講座を開催しました。当日は100名を超える地域の方々にご参加いただき、認知症についての学びを深めました。講義では、認知症は怖い病気ではないこと、病気になるため



大学院人間福祉学研究所臨床心理センター主催、大学院生・若手心理臨床家セミナーを開催

8月27日(日)に、北方圏学術情報センターポルトにおいて、大学院人間福祉学研究所臨床心理センター主催「大学院生・若手心理臨床家セミナー」を開催しました。「こころと生活に寄り添う心理臨床」をテーマに、全国的に有名な精神科医で、こころとそだちのクリニックむすびめ院長の田中康雄先生、本学心理カウンセリング学科学科新川貴紀准教授、日本心理研修センター理事長・本学大学院人間福祉学研究所臨床心理学専攻村瀬嘉代子客員教授による講演、本学大学院生による事例報告、グループディスカッションおよび発表等が行われました。多くの参加者からたくさん



「子どもを取り巻く社会環境の現状と課題」をテーマに、第8回北翔大学現職教員研修会を開催

9月30日(土)に、第8回北翔大学現職教員研修会を開催し、全道各地からの参加をいただきました。「子どもを取り巻く社会環境の現状と課題」をテーマに、本学健康福祉学部の林恭裕教授をお招きし、「地域と学校で支える子ども」の暮らし」と題し講演をしていただきました。子どもたちの貧困を切り口として社会全体の現状や子どもに与える影響、さらに取り組みの実際など、奥の深い内容でした。参加者の皆様から「大変興味深く、学校に戻ってから職場に伝えたい、伝えねばならない内容だと思いました」など大変勉強になった様子が伺えました。



北翔大学連携事業「2017今金コレクショントレイル」無事終了

今金町開基120年を記念し、北翔大学連携事業として2017今金コレクショントレイル「トレイル」が無事終了しました。芸術学科とライフデザイン学科から服飾・舞台を学ぶ26名の学生が参加し、今金町からは10名のモデルと中学生が参加し、協働してファッションショーを創り上げました。服飾の学生はモデルの着物リメイク作品を制作、舞台の学生は舞台装置とオペレットを担当し、中高生は服飾、舞台、ナレーションを体験する班に分かれ、共同作業を行いました。当日は約300名の観客が集まり、モデルさんたちに大きな声援をいただき、学生にとって、地域貢献、世代間交流を体験する素晴らしい機会となりました。



### 北海道枝幸高等学校と 高大連携協定を調印しました

11月27日(月)に、本学(西村弘行前学長と宗谷管内枝幸町の北海道枝幸高等学校(吉田勝文校長、生徒数169人)との高大連携協定調印式が挙行されました。

今後の実りある活動を誓って、西村前学長と吉田校長は固い握手を交わしました。今後は、本学の教員による出前授業などが予定されています。枝幸高校の生徒は北翔大学を知ってもらい、親しんでいただくことを、教職員一同期待しています。

調印後の挨拶では、本学西村前学長から「若者が大学などで学んだ後に故郷へ帰って、地域に貢献する人材になれるよう、育成に力を注ぎたい」と語られました。



枝幸高校の吉田校長先生からは、「本校の生徒は枝幸町が大好きです。小規模校ではあるが、町と一体となって、幼少中学校とも連携して、将来町を担っていく子どもたちを大切に育てています。これから北翔大学のお力も借りられることを喜ばしく思います。」と話されました。

### 北海道月形高等学校で、 ワークショップ「ツキトーク」を開催

9月19日(火)に、教育学科の三浦准教授の引率により、本学の学生18名が講師として月形高校に出向き、毎年恒例の「ツキトーク」が開催されました。



全生徒と本学の学生有志がワークショップ形式で交流する活動です。学生代表が司会を務め、アットホームな雰囲気を進められました。今年度のテーマは、「高校時代、将来のために学ぶべきこと」、「仕事の意義について」の2点です。少し難しいテーマでしたが、各グループでは、大學生が自身の体験に基づいた話題を提供し、共に意見を出し合いながら考えを深め、代表者が全生徒の前で発表しました。



閉会式では、三浦准教授から高校生への熱いメッセージが贈られました。この日は荒天で、大学への帰路は強い雨に見舞われましたが、充実感であふれた学生講師達の心は晴れやかに見受けられました。

### 高大連携協定校の生徒が 本学で模擬授業体験や施設見学

10月24日(火)、北海道岩見沢緑陵高校1年生41名、11月1日(水)、旭川龍谷高校1年生56名が本学へ施設見学を訪問しました。

岩見沢緑陵高校の生徒は、初めに学長のお話や地域連携センター長からの大学についての説明を聞きました。その後、全員で模擬授業に参加しました。当初は、やや緊張した面持ちでしたが、大學生に声をかけてもらい、一緒に手遊びをしたり、ひこうきリングを作ったり競争するなど、盛り上がりがありました。勉強の後は、学食体験でリフレッシュし、午後も施設見学や模擬授業等に参加しました。



旭川龍谷高校の生徒は、まず講義見学に参加しました。それぞれ7つの班に分かれて、興味のある実際の大学の講義体験を行い、真剣にノートを取る姿が印象的でした。大学訪問恒例の学食体験として、学長推薦メニューの昼食で、鋭気を養い、午後は、各班ごとに学生と一緒に構内を見学し、施設について積極的に質問をしたり、楽しく会話をしながら、充実した設備に感激した様子が見受けられました。最後は、記念撮影をしてお別れです。皆さんとても楽しそうで、安心しました。両校とも、オープンキャンパスでの再会を楽しみにしています。

### 恵庭南高等学校と 高大連携事業「専門演習」を開催

生涯スポーツ学部では、恵庭南高等学校との高大連携事業として大学の学び「専門演習」を開催しました。高校2年生の生徒75名が9コースの各専門に分かれて、担当の教員、大学院生、学生たちと一緒に、実験・実習を通じて大学での学びを深めることができました。



### 西村弘行前学長、 北海道科学技術賞を受賞

西村弘行前学長が、「植物香気成分の化学と生体調節に関する研究」により、平成29年度北海道科学技術賞を受賞。2月20日(火)には札幌市内のホテルで贈呈式が執り行われ、北海道知事から表彰されました。

北海道科学技術賞は、科学技術上の優れた発明や研究などを行い、本道の産業振興、道民生活の向上などに功績のあった研究者に贈られます。昭和35年度以来、151名、21団体が表彰され、今回は西村前学長を含む3名が栄誉に輝きました。



### 福祉・介護人材養成に関する奨学制度 3つの社会福祉法人と締結

超高齢社会を迎えた現在、国内では福祉・介護分野の人材確保が喫緊の課題となっています。そんななか、本学と札幌市内の3社会福祉法人「愛全会、栄和会、溪仁会」が2月20日(火)、福祉・介護人材養成に関する連携協定を締結しました。調印式には、愛全会の服部幸子常務理事、栄和会の瀬戸雅嗣理事・総合施設長、溪仁会の谷内好理事長が出席され、本学の山谷学長と協定を交わしました。

この協定には、各法人が本学の入学生に対し、奨学金を4年間貸与する項目などが盛り込まれており、来年度の入試から適用されることとなります。奨学金の対象となるのは、生涯スポーツ学部健康福祉学科に入学する高校生で、募集は3人。各法人が1人ずつ年間50万円を無利子で貸与し、入学金も免除されます。また、卒業後に各法人へ就職し、4年間勤務した場合は、奨学金の返還が免除される仕組みになっています。この制度を活用した学生たちが、福祉・介護の世界で活躍することを願っています。



### 小坂井留美教授、 日本体力医学会 学会賞受賞!

本学健康福祉学科小坂井留美教授が「Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」(JPFMS)に掲載された論文「Sex-differences in age-related grip strength decline: A 10-year longitudinal study of community-living middle-aged and older Japanese」が、第30回日本体力医学会学会賞(JPFMS)を受賞しました。

9月16日(土)～18日(月)に行われた第72回日本体力医学会愛媛大会において、表彰と受賞講演が行われました。



「Dcreation2017」が開催されました!  
12月8・9日の2日間にかけて、本学院最大イベントである「Dcreation2017」が開催されました。「Dcreation」とは、「DOREME」と「Creation(創造する)」を掛け合わせた造語で、本学院生がオリジナルブランドを立ち上げる「展示会」・「プレゼンテーション」・「ファッションショー」を行うイベントです。



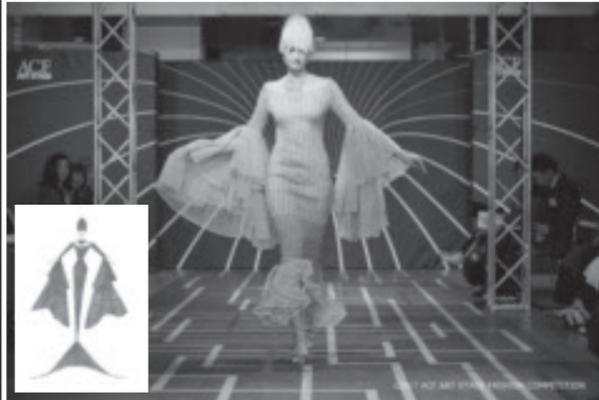
ファッションショーのテーマは「cha[ll]enge」。企画・演出・モデル・作品制作など全てを学生が手掛けています。今年は、全13ブランドが発表されました(写真上・下段)。



プレゼンテーションでは、審査員を前に、学生が作品のプレゼンを行います。制限時間内でブランド企画内容の説明や、より魅力的に作品を見せるために、ミニファッションショーを行い、発表しました。(写真上・下段)。



展示会では、学生が立ち上げたブランドの作品をブース形式で展示します。審査員とファッション業界の方をお招きし、プロ目線で学生作品、プレゼン能力に対して審査・評価をして頂きました。来場者に出展ブランドの魅力伝え、受注販売も行います(写真左・上段)。



最優秀グランプリ受賞/ファッション総合学科2年 宇野 かなでさん



入選/専攻科 前川原 由妃さん



入選/専攻科 坪谷 真愛さん

ACFアートステージファッションコンペティション最優秀グランプリ受賞!  
9月30日に行われたACF主催のアートステージ2017ファッションコンペティションにおいて、専攻科坪谷真愛さん、前川原由妃さん、ファッション総合学科2年宇野かなでさんの3名のデザイン画が一次審査通過しました。実物審査の結果、ファッション総合学科2年宇野かなでさんの作品が見事最優秀グランプリを受賞しました!



北海道ドレスメーカー学院  
Hokkaido Dress Maker College

〒064-0801 札幌市中央区南1条西22丁目1番1号 6F  
TEL.011-618-1939 FAX.011-618-1940  
(平日 9:00-17:00 土 9:00-13:00 日祝 定休)  
http://www.doreme.ac.jp/ koho@doreme.ac.jp

教育文化学部ニュース

術科  
第50回学外発表会  
(ファッションショー)を  
開催しました

学外発表会が12月16日(土)にポルトホールで開催されました。今年第50回の記念発表会となりました。ファッションショーは、1年間の集大成として、学生が製作した作品をショー形式で発表し、個々の個性を大切にしながら、学生1人ひとりがデザインから製作、モデルまで務めて行います。

今回のテーマは、「Lead」繋がる…  
スモッキングやパッチワーク、刺繍、染色、異素材との組み合わせなど手芸的技法を用いて作り上げたアートとテキスタイルが融合した作品130点を紹介しました。

また、今回は衣装作家で、世界的に活躍している桜井久美氏に「舞台芸術の魅力」と題して特別記念講演をしていただきました。

翌17日(日)には、恒例の平岸高等学校との連携ファッションショーも行われました。



教育文化学部ニュース

育科  
教育学科第1期生  
卒業生の未来に幸あれ!

教育文化学部教育学科が開始して今年度で4年が過ぎ、第1期生がこの3月に卒業します。

卒業にさきかけて初等教育コース、幼児教育コース、養護教諭コース、音楽コース各々の専門性を大切に頑張ってきた学生による4年間の集大成としての卒業研究発表会が去る1月31日(水)に開催されました。パワーポイントを使っての口頭発表、ポスターセッション、実演など、学生は精いっぱい表現をしました。

例年、卒業研究発表会には下級生も参加を可としています。それは、先輩たちの発表を見て大いに啓発され、近い将来の自分の姿を思い浮かべてさらに努力をする力に結び付けてほしいからです。

第1期生が卒業をして個々の職業に就く、そのように敷かれるレールは後輩たちの道標となり、さらに教育学科を盛り上げてくれることでしょう。

卒業生の未来に幸あれと願っております。

理  
心  
カウ  
ン  
セ  
リ  
ン  
グ  
学  
就業力養成科目に  
ゲストスピーカー来学

1月29日(月)と30日(火)の2日間で行われた、就業力養成科目「就業力特別講義Ⅲ」では、キャリア支援センター小川課長からのレクチャーに加え、心理士や精神保健福祉士として活躍している卒業生4名のゲストスピーカーを招き、学生時代の体験談や現場での仕事の様子などについて講義を頂きました。対象となる3年次の履修者以外にも学生の参加があり、自分達より少しだけ先輩である講師に積極的に質問を投げかけていました。通常の講義では知り得ない貴重な学びが得られ、学生にとっても進路を考える大切な時間となりました。



生涯スポーツ学部ニュース

スポーツ  
育科  
「健康運動指導士」  
「社会教育主事」を対象とした  
「新社会人研修会」の実施

11月に実施された「健康運動指導士」認定試験にスポーツ教育学科4年生が4名合格しました。資格取得者は、地方自治体が介護予防を目指す「健康づくり教室」などで運動指導を行います。特に、「NPO法人ソーシャルビジネス推進センター」「コープさっぽろ」と連携して実施している「地域まるごと元気アッププログラム(まる元)」事業での活躍が期待されます。

また、4月から北海道内の市町村で社会教育主事など公務員として勤務する10名と合わせて、学部主催の「新社会人研修会(全5回)」に参加し、新社会人として必要なマナーやスキルを獲得し、健康運動指導士・社会教育主事としてふさわしい知識と技術、礼節を備えた人材となることを目指しています。

健康福祉  
学  
健康福祉学科1年生  
「がたりんピック」で活躍

今年も健康福祉学科1年生が、月形町の「がたりんピック」にスタッフとして参加しました。このイベントは月形町の「つきがた健康づくり・体力づくり推進事業」「ヘルシー・アカデミー」の一環で開催されているもので、健康福祉学科1年生が毎年、学びの場として参加しています。

学生たちは班に分かれて6つの種目(ベタタンク、スカットボール、スポーツ吹矢、ラダーゲッター、フロアアクリング、デイスゲッター)のコーナーを担当しました。参加者の皆さんのお元気づけ・失敗しても笑顔で挑戦するお姿に、あっという間に会場は和み、学生たちも事前練習の成果を存分に発揮することができました。後日の振り返りでも、たくさんのお元気づけや学びが報告されるなど、学生にとって有意義な実習となりました。



短期大学部ニュース

フ  
イ  
ン  
ク  
ラ  
イ  
デ  
ザ  
イ  
ン  
グ  
第3回  
北のラジオドラマ大賞入賞

ライフデザイン学科ファッション舞台アートコースの2年次前学期科目「ラジオドラマ製作」は、ライフデザイン学科と芸術学科で舞台芸術を中心に学ぶ学生が履修します。学生オリジナル作品を札幌市内の本格的なスタジオで録音・編集する授業です。1年次前学期科目「朗読ナレーション」(後学期科目「声優トレーニング」)の集大成として位置付けています。今年度は3本の作品を制作し、北海道ラジオの会主催「第3回北のラジオドラマ大賞」に応募しました。昨年11月11日(土)京王プラザホテル札幌にて行われた授賞式において、3本のうちの1本「あまはれ」が、9つの入賞作品のひとつに選ばれ、「審査員奨励賞」を受賞しました。入賞作品は道内の民放ラジオ局で放送されています。来年度以降は大賞を目指して取り組んでいきます。

こ  
ども  
学  
卒業生を送る会  
卒業生の胸に  
去来したものは……

こども学科では、1月16日(火)に「卒業生を送る会」が行われました。この会は1年生のAからF組までの6クラスの出し物を中心となりますが、企画から配役、練習内容まで自分たちで考え、自分たちの手で作り上げていきます。そして当日、器楽演奏や劇、チャタンス、合唱など趣向を凝らした出し物に、卒業生が笑いあり涙ありで見入っている姿が印象的でした。短大の在学は2年間です。卒業生は、ほんの1年前には出し物を出す側でした。そして、この1年間で教育実習、保育実習、施設実習を終え、2ヶ月後には保育士や幼稚園、小学校の先生などとして巣立って行くこととなります。最後の全体合唱「奏」を歌いながら、卒業生の胸には様々な思いが去来していったのではないのでしょうか。





スポーツ教育学科吉田真教授が本部メディカルスタッフとして派遣され、選手の支援を行いました。

今年2月に開催され、数々の感動的なシーンも記憶に新しい平昌(ピョンチャン)冬季五輪。日本選手団は、海外で開催される冬季五輪では過去最多の人数が派遣されましたが、そのなかには本学卒業生も含まれていました。

### 平昌(ピョンチャン)オリ・パラ 本学卒業生も躍動しました!

フリースタイル・モーグル女子の村田愛里咲さん(学習コーチング学科 2013年卒)は、モーグルでは唯一の女子選手として選ばれました。福岡県出身で、競技に専念できる環境を求め、高校から北



Way to go! Club, Circle and Other Activities クラブ・サークル・学生たちの活躍

女子アイスホッケーのメンバーには、久保英恵さん(短期大学部 2003年卒)、堀珠花さん(スポーツ教育学科 2014年卒)、藤本もえこさん(スポーツ教

育学科 2015年卒)の3名が選出されました。開催国枠で初出場した1998年の長野、そして前回ソチにも5戦全敗で終えたスマイルジャパン。しかし今回は、1次リーグで五輪初勝利をつかみ、さらに5-8位決定戦では格上のスウェーデンに競り勝ちました。最終的には強豪がひしめくなかで6位と大健闘しました。

### アルティメット 世界大会で準優勝!



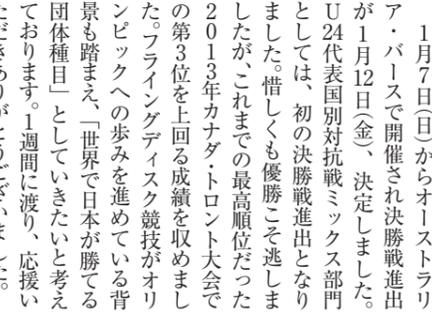
本学のアルティメット部所属のスポーツ教育学科4年の佃奈穂さんが、2018年1月にオーストラリア・パースで開催された「世界フライングディスク連盟(WFDF)2018世界U24アルティメット選手権大会」の男女混合(ミックス)部門において、日本代表メンバーに

選ばれました。12月22日(金)には、世界大会の出場へ向けて決意表明が行われ、西村学長から「持久力と技術が必要で、体力が相当いる。究極のスポーツ。大会では怪我なく頑張ってきてほしい」とエールが送られました。1月7日(日)からオーストラリア・パースで開催され決勝戦進出が1月12日(金)、決定しました。U24代表国別対抗戦ミックス部門としては、初の決勝戦進出となりました。惜しくも優勝こそ逃しましたが、これまでの最高順位だった2013年カナダ・トロント大会での第3位を上回る成績を収めました。フライングディスク競技がオリピックへの歩みを進めている背景も踏まえ、「世界で日本が勝てる団体種目」としていきたいと考えております。1週間に渡り、応援いただきありがとうございます。

オリピックの熱狂は幕を閉じましたが、3月にはパラリンピックが開催されます。本学からは、新田のんのさん(芸術学科3年)が、クロスカントリーとバイアスロンで出場が決まりました。新田さんはまだ競技歴3年ながら、昨年3月のワールドカップ札幌大会で上位入賞を果たした実力が認められました。入賞をめざしたい」と意気込む新田さんの活躍にご期待ください。

Table with 4 columns: ミックス部門, 最終順位, 準優勝/14チーム, and 決勝トーナメント. Lists results for various international events.

### 全日本総合エアロビックス選手権大会準優勝!



11月5日(日)、東京都大田区総合体育館において「スズキジャパンカップ2017第34回全日本総合エアロビックス選手権大会」全国大会が開催されました。本学からは、エアロビックス部の大学院生生涯スポーツ学専攻科2年は枝亮さんが北海道地区代表として出場し、シニア1男子シングル部門において2位となりました。是枝さんは、来年行われるワールドカップおよびFIG世界選手権大会の日本代表に内定しました。皆様から多くのご声援をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

クリエティブイベント「NoMaps」で芸術学科学生が展示発表! 芸術学科学生がクリエティブイベント「NoMaps」で展示発表しました。10月5日(木)～15日(日)、札幌市が今年から本格開催したクリエティブイベント「NoMaps」のローカル・クリエイターズ・エキシビション(10月7日(土)～10日(火))で、芸術学科のインテリア建築系2～3年生有志チーム(FGチーム)が制作したプロジェクト「おぼろげな未来」を展示しました。

11月18日(土)、第3回選書ツアーを紀伊國屋書店札幌本店で開催しました。学生参加者7名が、「自分が読みたい」「ほかの学生にも役に立つ」本を図書館の蔵書として選びました。

午後1時、広大な店内に置き放たれた学生たちは、見事なまでに別々の方向に散りました。2時間

### 図書館は私がつくる 選書ツアー開催



で選んだ本は合計106冊。このうち読書ガイドを含む文学が最も多く43冊、食と健康を含む生活文化が26冊でした。コミック、芸能人のエッセイから硬派ノンフィクションまで、選んだ学生自作のポップを添えて図書館1階ラウンジコーナーに展示しました。今回のツアーもお見逃しなく。

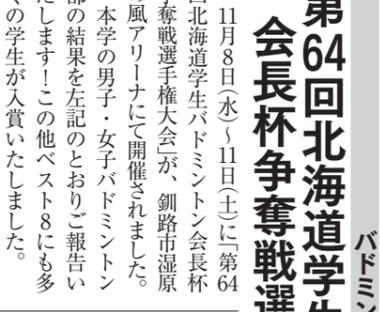
第64回北海道学生バドミントン会長杯争奪戦選手権大会入賞! 11月8日(水)～11日(土)に、第64回北海道学生バドミントン会長杯争奪戦選手権大会が、釧路市湿原の風アリーナにて開催されました。本学の男子・女子バドミントン部の結果を左記のとおりご報告いたします! この他ベスト8にも多くの学生が入賞いたしました。今後とも北翔大学男女バドミントン部への熱い声援よろしくお願いたします!



会場は札幌駅前チカホ北4条で連日多くの市民の方々に見学していただきました。この展示の様子は、TVhテレビ北海道の番組「けいざいナビ北海道」ノーマップス開幕(10月14日(土)放送、10月19日(日)放送)でも紹介されました。

### 救急搬送法講習会 「命を守る」第2弾

Table with 2 columns: 男子シングルス and 男子ダブルス. Lists winners and runners-up for badminton tournaments.



10月17日(火)に救急搬送法講習会をスポーツ1階多目的ホールにて実施いたしました。本学トレーナー部(赤十字救急法救命員認定資格者)が講師を務め、「命を守る」をテーマに実際に想定される緊張感を伝えながら実践形式で指導が行われました。本学は教職課程を履修する学生が在籍することや、講義および課外活動において体育・スポーツ活動を行う上で、事故発生時における適切な対応方法を習得することは有益であるため、学生団体を対象に第1弾・5月「命を守るAED講習」、第2弾・10月「命を守る救急搬送法講習」の講習会を実施しています。

認、計画、行動を学んだあと、2人1組で行う搬送法や、1人で行う搬送法のほか、施設の使用しなればならない場合を想定した担架・バックボードを使った搬送法について学びました。



今回の講習会は29団体が参加し、搬送法に関わるプロセス(確

### 救急搬送法講習会 「命を守る」第2弾

Table with 2 columns: 女子シングルス and 女子ダブルス. Lists winners and runners-up for badminton tournaments.

認、計画、行動を学んだあと、2人1組で行う搬送法や、1人で行う搬送法のほか、施設の使用しなればならない場合を想定した担架・バックボードを使った搬送法について学びました。

# My Life 4 My Story

ひとの数だけ物語がある。

北翔大学 生涯スポーツ学部  
健康福祉学科 教授  
社会福祉士  
**林 恭裕**  
Yasuhiro Hayashi

1950年 北海道札幌市出身  
1974年 弘前大学人文学部経済学科を卒業  
2004年 本学人間福祉部に助教授として着任

・所属学会  
日本地域福祉学会  
日本福祉介護情報学会  
北海道地域福祉学会

・社会活動  
社会福祉法人 愛和福祉会 理事長  
社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会 評議員  
社会福祉法人 三尊会 監事 など

## 経済から福祉の道へ

私が本学に来たのは2004年で、年齢はすでに50代前半でした。遅まきながら、大学教員としての一歩を踏み出したんです。それまでの経歴を振り返りますと、まず大学は経済学学科でした。大学では福祉の「ふ」も学んでいないのです。時は1970年代前半、すでに下火ながらも学生運動が続いていました。そのなかで障がい者問題などに関わったこともあり、卒業後は故郷の札幌に戻って「北海道社会福祉協議会(道社協)」に就職したのです。道庁の外郭団体と思って、あまり忙しくないだろう、という不純な動機もありましたが(笑)

## 本学就任までの歩み

ところが、その予想は見事に外れました。市町村社会福祉協議会の仕事を皮切りに、保健福祉情報システムや北海道高齢者相談センターなど、新規事業の立ち上げにも携わり、面白くも大変な日々でした。広報紙『明るい社会』の編集も担当し、障がいのある方とのつきあひも出てきました。筋ジストロフィーの友人と札幌市内の車椅子点検活動を行ったこともあり、車椅子で使えるトイレなどを調査したのですが、つい最近、家の資料を整理しているとその報告書が出てきましたね。70年代ですからもろろん手書きで、と



## 卒論指導の思い出

そんななかで本学から声をかけていただいたんです。大学という場で、自分が経験してきた福祉をじっくり整理してみるのもいいかな

でも懐かしかったです。福祉を専門とする大学の先生との共同研究も行った時期です。結局、道社協には29年在籍しました。その間には1985年の阪神淡路大震災もあり、現地の災害ボランティアセンターで支援活動に参加。2000年の有珠山噴火ではその経験を活かし、災害ボランティアセンターの立ち上げも行いました。

## 2つのサプライズ

そんな私にとっての1期生をはじめ、各年代のゼミ生とはずいぶん

なと考えました。それでお世話になることに決めたのですが、大学は落ちていて時間がとれるような場所ではありませんでした。道社協に入ったときと同様、またも見込みが甘かったのです(笑) 教員1年目から10数名のゼミ生を抱え、試行錯誤の連続でした。特に覚えてるのは卒論指導ですね。最低4万字というノルマを課したのですが、学生が書いてきたものに赤字を入れて書き直させたり、それを1人につき3回ほど繰り返す作業は、本当に骨が折れることを知りました。当時は記録媒体がフロッピーディスクで、ある学生の論文データが全部消えてしまったんです。締め切りの3日前でした。本人とその友だち2名、そして私を合わせた4名で手分けをして、書きかけの原稿の出力紙を見ながら打ち直したのは、今となってはいい思い出ですね。

## たい焼き屋に転身?

本学には、今後もコミュニティを元気にする大学として発展して欲しいと願っています。地域、学校、施設、企業

私と関係後は、こども食堂などに関わってみようと思っています。それで今、たい焼きの道具を買って、練習しているんですよ。焼いては食べるので、太るのがいちばんの悩みですね(笑)



ていて、うれしいサプライズでしたね。本当に楽しいひとときでしたが、こちらからもサプライズがあつて、なんとその年で退任しなかつたという(笑)。2年延長して、今回は本当に退任となります。SNSでも発表したのですが、「先生、今度は本当ですか?」と信じてもらえません。

## 2018-2019 オープンキャンパス開催予定

平成30年度、第1回オープンキャンパスを5月27日(日)に開催します。今年も学生スタッフを中心に本学の魅力を伝えていきますので、ご家族や身のまわりの方で本学に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、是非、お声がけをお願い致します。道内各都市より無料送迎バスも運行、学生スタッフ・教職員一同、ご参加を心よりお待ちしております。

2018-2019 OpenCampus開催日	
第1回	5月27日(日)
第2回	6月24日(日)
第3回	①8月4日(土) ②8月5日(日) ※①②の開催内容は同様です。
第4回	9月23日(日)
第5回	12月2日(日)
第6回	3月10日(日) [2019年]

お問い合わせ先  
アドミッションセンター  
TEL: 011-387-3906



## 北翔大学 寄付金募集のご案内

本学では、このところの経済不況により修学の継続が困難な学生が増加しており、学生への支援とあわせて、良質な教育環境を今後も維持していくために、寄付金を募集しています。ご支援を賜りました寄付金は有効に活用させていただきます。有能な人材の輩出、社会に役立つ研究成果を通して、広く社会に還元し、貢献してまいります。ご寄付をいただいた金額に税制上の優遇措置を受けることができますので、企業等法人及び個人の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【寄付金 募集期間】  
平成31年5月まで  
(常時受入れさせていただきます)

【お問い合わせ】  
総務部総務課まで  
詳細は本学ホームページ  
<http://www.hokusho-u.ac.jp>  
をご覧ください。

## 御礼申し上げます

北翔大学ソフトテニス部OB会様より、ニオイヒバ26本植栽による現物寄付(259,200円相当)をいただきました(平成29年度)

北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科平成28年度卒業生一同様より、冷水器2台の現物寄付(344,520円相当)をいただきました(平成29年度)

小川裕美氏より10,000円のご寄付をいただきました(平成29年度)

ご支援を賜りましたことを、厚く御礼申し上げます。

今年もたくさんの「せんせい」が生まれます!

北翔大学では、前身である北海道女子短期大学を1963年に開設以来、主に北海道内の教育現場へと多数のせんせいを送り出してきました。長い歴史が培った教員養成のノウハウと、担当教員の親身な指導によって、現在も高い合格実績を誇っています。

合格おめでとうございます!  
平成30年度  
教員採用候補者選考検査  
登録者数  
**143名**  
平成29年11月7日現在

## 2018年4月～9月 [共通行事予定]

4月	3日(火)	在学生オリエンテーション
	4日(水)	入学式(10:00)
	5日(木)	新入生オリエンテーション(～6日)
	9日(月)	前学期講義開始
5月	1日(火)	休校日(7/16の振替休日)
	2日(水)	休校日(9/24の振替休日)
	27日(日)	オープンキャンパス①
6月	24日(日)	オープンキャンパス②
7月	16日(月)	〈海の日〉月曜日授業
	24日(金)	第1期編入学試験 学内公開日
8月	4日(土)	オープンキャンパス③
	5日(日)	オープンキャンパス④
	6日(月)	免許状更新講習(～10日)
	13日(月)	夏季休業日(教職員)(～16日)
	25日(土)	第1期編入学試験(7号棟・PAL棟立入禁止)
9月	2日(日)	保護者懇談会(本学会場)
	5日(水)	休校日(学園創立記念日)
	8日(土)	保護者懇談会(本学会場)
	28日(金)	前学期学位記授与式
29日(土)	大学祭	